

3331 × 東京ビエンナーレ2023連携企画  
**展示スペースがアーティストのアトリエに！**  
**0 JUN個展『絵と縁』開催のお知らせ**



《富士一大沢崩》2023

この度3331(合同会社コマンドA)では、神田小川町の古い額屋をリノベーションしたコミュニティアートスペース「優美堂」にて、アーティストの0 JUN氏による個展「絵と縁」を開催いたします。

本展では、1Fの展示フロア内の一角に0 JUN氏が絵画を制作するスペースを設けて公開制作を行い、会期中に約10点のキャンバス作品を制作していきます。完成した作品は優美堂にストックされていたヴィンテージの額に入れられ、制作順に白い壁面に展示。時間とともに展示作品が増えていく臨場感をご体感いただけます。

会期初日の9月21日(木)から制作を開始し、2023年12月中には全作品の完成を予定しております。0 JUN氏の在廊日時は、随時3331のSNS等でご案内して参ります。

0 JUN氏の創作の現場を体感できる貴重な機会となる本展をぜひともご周知頂きたく、何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

※本展は、東京ビエンナーレ2023連携特別企画です。

## &lt;開催概要&gt;

- 展覧会名：0 JUN個展『絵と縁』
- 会 期：2023年9月21日(木)～2024年1月23日(火) 入場無料
- 休 廊：水曜定休
- 時 間：月・火・木・日 11:30～18:00、金・土 11:30～21:00(優美堂営業時間に準じる)
- 会 場：優美堂 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4
- 主 催：3331、優美堂再生プロジェクト実行員会
- 連携企画：東京ビエンナーレ2023

## &lt;公開制作について&gt;

会期中、優美堂内でアーティストによる公開制作を行います。全作品の完成は2023年12月中を予定しております。公開制作については、3331SNS等で作家在廊状況をお確かめの上、直接会場にお越しください。

## &lt;関連イベント&gt;

1. トークイベント 作家本人による作品解説、制作過程について  
日時 10月27日(金)18:30- 要予約(9月末予約開始)
2. ゲストを迎えてのクロストーク  
日時 12月23日(土) 18:30 - 情報公開をお待ちください

## ●連携企画

東京の地場に発する国際芸術祭「東京ビエンナーレ2023」リンケージ つながりをつくる

秋会期 2023年9月23日(土)～11月5日(日) <https://tokyobiennale.jp/>

\*2年に1度開催される国際芸術祭。当企画の会期中に開催されます。近隣に複数会場が点在します。是非あわせてご覧ください。

## 【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

**3331 / 合同会社コマンドA** \*2023年4月1日より住所が変更になりました  
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-12-5 長谷川ビル2F TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442  
E-MAIL:pr@3331.jp (担当:武田) URL:<https://www.3331.jp>

## ■ アーティスト・ステイトメント

### 【誰かと絵具と額縁と、そして落ち着かない場所】

いままでしたことがない仕方では絵を描いてみようと思う。なぜかというとしたことがないからだ。けれど、ぼくがしたことがないだけで、たぶんどこかの誰かはしていると思う。それを見たことがないので自分で試してみようと思う。

絵の中にはいろいろなことが描かれるが絵の外でもいろいろなことが起きている。絵のうちそとで人やモノが触れあっている。その境目はあるようで実はないのではないか。

分断や切断や閉じたりはできないのではないかとしたら、ぜんぶがつながっている世界に身の置き所がないことはどこか不安だ。どこも居場所であるという考えもある。ぼくは絵の中の話からいつの間にか絵の外に出てしまっている。だけど、しばらく外の様子を眺めていると同じことが絵の中でも起きていることに気がつく。これは“連動”ということなのか？それとも“なぞり”、なのだろうか？

絵を描くたびに平たい世界は惨い場所だと痛感してきたけれど、縦横奥行きあるこの世もけっこう惨いじゃないか。やはり境目はないのだろうか。ならば、ぼくがずっと昔から絵を描き続けていることにそろそろ感情をあらたにすべきだ。習慣でも惰性でも使命でもないのだから。

ぼくが初めて絵を描いたのはもう思い出せない昔のことだが、その時はなぜ絵を描いたのだろうか？父か母が買ってくれた画用紙とクレヨンをおぼくの前に置いて絵を描いてごらんと言われたから？そう言った親はいつどこで絵を見たり描いたりしたのか？自分が絵を描く理由や原因はもはやまったく霧の中。でも絵の始発を遡ろうということじゃない。それは不可能だし意味がない。けれど、いつかだれかがしたことをぼくもしたくなって真似たりなぞったのだ。ぼくが始発ではないことだけは確かだ。であるならば、自分が最初でないことを初めてするこの“矛盾”は、僕にいったい何をさせようとしているのだろうか。

うん、いろいろな絵の仕方をするしか手はないのだと思う。

O JUN

## ■ O JUN | 作家プロフィール

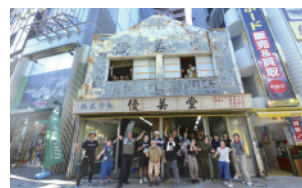


- 1956 東京都生まれ
- 1980 東京芸術大学美術学部油画科卒業
- 1982 東京芸術大学大学院美術研究科油画専攻修士修了
- 1984-85 スペイン(バルセロナ)滞在
- 1990-94 ドイツ(デュセルドルフ)滞在
- 2007 文化庁芸術家在外派遣研修員としてアルゼンチン(ブエノスアイレス)滞在

1956年、東京生まれ。画家。油彩や水彩、クレヨン等で日常を描く。錫と鉛を鋳造した鉛筆でライブドローイング等も行う。近年の展覧会は、『描く児』(府中市美術館、2013)。『まんまんちゃん、あん』(国際芸術センター青森、2016)。『途中の造物』(ミヅマアートギャラリー、2019)。『六本木クロッシング2022』(森美術館、2022)等。2010年より2021年まで東京藝術大学に勤務。

## ■ O JUN氏と優美堂について

優美堂は、戦後、都市化が進んだ東京の真ん中・千代田区神保町の地に額縁専門店として開業し、絵画や写真といったメディアとともにアートや生活様式を広く知らしめながら、人々の生活を豊かにする役割を担っていました。惜しまれつつ閉店した後は長く閉じられていましたが、2020年に始まった「優美堂再生プロジェクト」によってリノベーションがスタート。コミュニティアートスペースとして生まれ変わりました。同プロジェクトでは、荒廃が進んでいた優美堂のファサードを飾る富士山の看板部分に、O JUN氏が元の素材を残しながら新しい富士山の絵を描き、店名が書かれた横長の看板にも装飾を施すなど、随所にO JUN氏の創造が散りばめられています。



【改修前】  
「優美堂再生プロジェクト」(2020年～)



【改修後】  
「優美堂」正面に描かれた、O JUN氏による富士山の看板

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

**3331 / 合同会社コマンドA** \*2023年4月1日より住所が変更になりました  
〒101-0021 東京都千代田区外神田6-12-5 長谷川ビル2F TEL:03-6803-2441(代表) FAX:03-6803-2442  
E-MAIL:pr@3331.jp (担当:武田) URL:https://www.3331.jp